

ウーリーモンキーの繁殖について

高橋亨祐¹⁾ 小林夏子²⁾

(¹⁾ よこはま動物園, ²⁾横浜市繁殖センター)

ハイイロウーリーモンキー(*Lagothrix cana*)は絶滅危惧種 IB 類 (EN) に指定されているが, 国内の飼育状況も少なく, 繁殖事例も限られている。これまで, よこはま動物園では繁殖に成功した事例が 3 例あるが, 以降繁殖に成功しなかった。今回, 新規雌個体の導入により, 当園で 17 年振りに繁殖に成功した。その経過について報告する。当園では 2005 年の繁殖以後, 収容頭数の関係から, 繁殖制限を行ってきたが, 2011 年から雄 2 個体 (No. 12, 他 1 頭), 雌 1 個体 (No. 11) で同居を再開したが, 繁殖には至らなかった。そこで, 2020 年 10 月に日本モンキーセンターから新規の雄 1 個体 (No. 13), 雌 2 個体 (No. 14・No. 15) を導入した。その後, 新旧個体を全て同居させ, 直接観察し行動を記録した。合わせて, No. 14 と No. 15 の糞を 2 日に 1 回採取し, 横浜市繁殖センターと共同で雌の黄体活動の指標となるプロジェステロン (P4) の動態を調べた。同居については, 当初バックヤードで行ったが, 闘争が度々確認されたため, より広い展示場で行うこととした。また, 交尾については同居以降, 新規雌個体との間でのみ確認されるようになった。2022 年 9 月 27 日~29 日に No. 12 と No. 15 の間で交尾がみられ, これ以後に No. 15 の発情行動が確認されなくなった。また糞中 P4 の測定結果についても, 2022 年 9 月 27 日以降に妊娠の兆候となる P4 値の上昇が確認されたため, No. 15 の妊娠を推測した。No. 15 の妊娠中の対応は, 通常の出産準備に加え, 冬季においては非展示とし, サブ運動場の外周にビニールを張る等の防寒対策を行った。2023 年 5 月 3 日に繁殖仔を出産し自然哺育となった。繁殖成功に至った理由として, 本種の野生下における群れの形成過程を再現できたことや, P4 により発情周期を把握しながら同居が実施できたこと, そして早期に妊娠診断可能となり妊娠中に適切な飼育管理を行えたこと, No. 15 が経産個体であったことが考えられる。今後も引き続き繁殖に取り組むとともに, 繁殖行動と内分泌の関係について研究を進めていく。